



シリーズ

みんなで考えよう。
人が人らしく生きるために…

人権

「コミュニティ・スクール」② 連携・協働による人権教育

現在、町では、学校と地域が

連携・協働して子どもたちを育てる「コミュニティ・スクール」制度を導入して、「地域とともにある学校づくり」を進めています。平成26年10月の広幡小学校を皮切りに、平成27年4月には日吉小学校、11月には笠郷小学校がすでにスタートしています。

導入前は、この制度についてよく分からず、不安だという声もありました。しかし、準備委員会をはじめさまざまな会議では、地域の皆さんから学校を応援する力強い言葉をいただき、着実に準備を進めることができました。すでに導入されて1年が経つ広幡小学校では157人、日吉小学校では108人のサポーター登録があり、地域の皆さんとの連携・協働により、特色ある活動が展開されています。あらためて、養老町のソーシャル・キャピタル（信頼関係や人間関係、絆など）の高さを

実感しています。

このコミュニティ・スクールは、人権教育・啓発についても大きな役割を果たしていくことが期待されています。

これまで町の人権教育・啓発は、学校と地域それぞれで行われてきましたが、昭和59年度からは、「スリーステップ方式」という制度を導入して推進してきました。「スリーステップ方式」とは、地区を指定し、1年目は地域交流、2年目は公民館における研修、3年目は学校・PTAの発表と、3年サイクルで人権教育・啓発を推進する制度です。この制度は、いかに町民一人一人に人権教育を浸透させるか、という課題を受けて考えられたものでした。

この制度の導入により、町内すべての学校で人権教育を核にした学校経営がなされ、すべての地区で公民館を中心とした啓発活動が行われるようになりました。

「スリーステップ方式」による人権教育・啓発は、養老町の教育の特色と言えるものと思っています。

これまでの取組を大きな成果としながら、さらに人権教育・啓発を確かなものにするために、来年度より「スリーステップ方式」から、「連携・協働による人権教育」にシフトしていく予定です。

これは、学校による人権教育と地域による人権教育を強化するとともに、それぞれの課題や願いに応じて、連携・協働した人権教育・啓発に取り組むというものです。学校は、いじめや情報モラルなどさまざまな人権問題を抱えています。同じように、家庭や地域でも、女性や高齢者などさまざまな人権課題が残っています。これらの問題を学校・家庭・地域が一緒になって考え、智恵やアイデアを出し合いながら、連携・協働しながら実践していくことが、コ

コミュニティ・スクールでは可能になると考えています。
コミュニティ・スクールが、人権教育・啓発においても希望となることを願っています。

地域の皆さんは本当にすごい方ばかりです。区長さんをはじめ地域の皆さんが、団結して学校を応援してください。
先日、私たちが草を運んでみると、「先生はそんなことやらなくてもええ。そんなことはわしらがやるで、先生達は子どもをしっかりとやってくれ。」と、温かい声をかけて頂きました。本当にありがたいことで、地域の皆さんには感謝の気持ちでいっぱいなんです。地域の方の思いに伝えることができるように、学校もしっかりしなくては、いつも思っています。
地域の皆さんには、いつも温かいご支援を頂いています。養老町全体が「人を大切にする」温かい町なのだと思います。養老町で働くことができ、私は幸せです。少しでも貢献し、恩返しができるように頑張ります。
〈ある先生の手紙より〉